

### 平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雪国の個性を活かした雪中貯蔵酒づくり事業
事業主体 (連絡先)	内山酒米研究会 下高井郡木島平村大字穂高 1413-4
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	422,667円 (うち支援金: 315,000円)

#### 事業内容

木島平村内山地区の3人の農家が生産する酒米と同地区の清水を使い、隣接する中野市の酒造会社(志賀泉酒造株式会社)が日本酒「内山乃雫(うちやまのしずく)」を醸造し、それを村内の酒販店(内藤酒店)で販売している。平成25年からは、それをさらに雪室で雪中貯蔵し、付加価値を付けて販売する取り組みを実施している。この雪中貯蔵酒づくりの取り組みは、関係者のみならず地域住民の協力を得て実施されているのが特徴である。

今年度は、さらに発展的な取り組みを目指し、PRグッズを用いた雪中貯蔵酒のローカルブランドとしての魅力の発信や、雪中貯蔵の技術改良として新しい被覆材を用いた雪室の築造を行った。



【日本酒を雪室に埋めシートをかけ、参加者で万歳(H28.3.4)】

#### 事業効果

- ①雪中貯蔵酒の魅力発信のためのPRグッズとして、のぼり旗を製作し、内山地区や酒販店で活用した。その結果、内山地区や村内外で雪中貯蔵酒の評価が高まり、購入者が増加した。また、本格的に雪中貯蔵酒を取り扱う酒販店が2店増え、各酒販店での販売が促進された。加えて、評価が高まったこともあり、平成28年は、木島平村のふるさと納税の返礼品としても利用されることになった。
- ②雪中貯蔵技術の改良として、雪室の被覆材(遮熱シート)を新たに購入して利用した。その結果、平成27年は、6月下旬まで過去最長の4カ月間の雪中貯蔵が可能になった。また、平成28年は、3月に雪室をつくり、過去最多の3,500本の日本酒の貯蔵を開始した。

#### 【目標・ねらい】

- ①雪中貯蔵酒の魅力を広め、販売を促進する。
- ②雪中貯蔵の技術を高め、貯蔵できるお酒の量を増やすとともに、貯蔵期間を延ばす。

※自己評価【 C 】

【理由】

- ・村内の雪中貯蔵酒の評判・評価が確実に高まり、販売も促進されている。
- ・雪中貯蔵の技術が向上し、より長期間かつ多量の貯蔵が可能になった。

#### 今後の取り組み

今年度は、支援金事業の活用により、雪中貯蔵酒の魅力や価値が村内外に理解され広まるとともに、雪中貯蔵の技術も向上した。今後は、酒米生産、日本酒の製造、販売、雪中貯蔵の各分野で更なる技術向上を目指すとともに、酒米生産者の拡大や酒販店のさらなる増加など、取り組みに主体的に関わる人材の確保にも積極的に取り組みたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある